

令和2年度大谷中学校・高等学校

学校関係者学校評価委員会

【日 時】 令和3年7月 新型コロナウイルス感染予防のため書面にて実施

【委 員】(敬称略) 13名

田村 敬子	大阪市立松虫中学校校長
松下 淳則	大阪市立丸山小学校校長
米村 淳	(株)五ッ木書房取締役
佐野 淑	卒業生の保護者(元PTA副会長)
田村 康平	在校生の保護者(令和2年度PTA会長)
生島 昭恵	卒業生(平成18年度卒)
宮下 和之	大阪大谷大学教授
堀川 義博	校 長
永田 幸子	教 頭
村井 康容	教 頭
三木 栄子	教務部長
岩出 隆子	進路指導部長
伊藤 良太	海外教育部長

1. 議事 令和2年度学校評価

2. 資料送付

令和2年度大谷中学校・高等学校 学校評価資料  
(学習指導・生活指導・進路指導・海外教育・入試対策・  
教員自己評価・保護者・生徒アンケート結果)

## 令和2年度 大谷中学校・高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

報恩感謝の精神に基づく宗教的情操教育を通じて豊かな心を養い、自ら学ぶ意欲と社会の変化に的確に対応し得る能力を育み、21世紀社会を正しく生きるための幅広い社会認識を持たせる。

心身ともに健全で美しい女性を育成する女子校として、宗教的情操教育を基盤とした生活指導の徹底と進学校としてのより高度な学力養成をはかり、慈悲の心を有する優しい女性、礼儀正しい美しい女性、高い知力を備えた聡明な女性を育む。

### 2 中期的目標

#### 1. 学習指導

- ① 学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。
- ② コースに応じた学力向上の取り組みを強化する。
- ③ 「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、教員の授業力を向上させる。

#### 2. 進路指導

- ① 生徒の進路や個性に応じたコース編成で一人ひとりの力を最大限に伸ばすべく、個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導を図る。
- ② 中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開に努める。
- ③ 将来、社会で生き抜いていく確かな力を身に付けさせるため、中学生の早い時期から、自己の適性や社会との関わりを意識させることで、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できる人間に育てるべく、様々な取り組みを工夫する。

#### 3. 生活指導

- ① 「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」「時間厳守」を年間生活目標に設定する。
- ② 生徒対象に防災教育、SNSや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などを実施し、生徒に対して啓発に努める。
- ③ 教員対象に生活指導に関する研修を受け、情報を共有し、全職員で指導にあたるべく努力する。  
カウンセリングや必要に応じた特別支援の充実、学園カウンセラーとの連携などを通じたいっそうの指導、対応に努める。

#### 4. 海外教育

- ① グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成する。
- ② 異文化理解に努める。
- ③ 英語によるプレゼンテーションの向上を図る。
- ④ ニュージーランド1年留学・3か月留学を通じて、実用的英語力の涵養を図る。

#### 5. 生徒募集・広報活動

- ① 中学校入試では入試行事参加者を増やし、募集定員確保のため積極的に広報活動に努める。
- ② 高校入試では幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保を目指す。

3 本年度の取組内容及び自己評価

項目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導	①学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。	・学習習慣の確立と基礎学力定着のために小テストを実施する。	・全員合格を目指して指導する。 ・成績不十分者には追試や課題などを与える。	・学習習慣の確立と、基礎学力の定着に効果が現れた。(○) ・小テストの実施について改善が見られた。(◎)
	②コースに応じた学力向上の取り組みを強化する。	・管理職会議で、生徒の考査成績や模試成績を分析し、コースに応じた学力向上対策を実施する。	・考査や模試の偏差値で40以下となるような成績となる生徒をなくす。	・中学、高校とも、低学力層の生徒に対する手当が十分ではなかった。(△)
	③「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、教員の授業力を向上させる。	・授業研鑽週間をⅢ学期に設ける。	・中学、高校それぞれの授業を1時間以上見学し、報告書を提出の上、授業担当者にフィードバックする。	・授業を自由に見学できる期間をⅢ学期に設けたので、余裕を持って授業見学ができた。また、他教科の授業を見学したり、年代の違う教員の授業を見学したことで、様々な刺激を受けて、自分の授業に活かすことができたようである。(○)
		・ICT機器などを活用し、「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、授業に活かす。	・生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、思考力、判断力、表現力を習得する。	・教員のICT機器の活用が増え、生徒が自ら学ぼうとする意欲を高揚させることができた。また、プロジェクターなどを生徒の理解を助けるために、有効活用できている。(◎)
	・教務部と進路指導部が連携して、学習指導委員会を運営し、教育課程・シラバス・年間指導計画の妥当性のチェックと改善を行う。	・学習指導委員会による検討内容が全教員に伝わり、学年間や教科間での連携、状況認識を徹底させ、授業の充実や学習指導の改善に活かされる。	・学習指導委員会の会議内容は、学年会議を通じて毎週報告をした。これにより情報交換と伝達がスムーズになり、教員間、教科間の連携がとれ、生徒の学習到達状況の把握と対策が行えた。(△)	
2 進路指導	①生徒の進路や個性に応じたコース編成で、一人ひとりの力を最大限に伸ばすべく、個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導を図る。	・平常講習や長期休暇中の講習を開講し、学習の補充を行う。 ・生徒の状況に応じて、卒業生のチューターを活用して、少人数の個別指導を行う。	・それぞれの講習の日程・回数・内容について、生徒のニーズに合っているか、7割以上の満足度を得られているかを確認する。	・講習の日程・回数についてはコロナウイルス関連で休校期間があったり、放課後の活動が制限されたりで、十分とは言えない結果となった。しかし、内容については、十分工夫して取り組まれた。(△)
		・中学校低学年においては、コース変更を柔軟に行い、個々の学習ペースに適した学習環境を整える。 ・学習や進路についての面談を有効に取り行う。	・コースの目標に沿った学習計画・学習内容が展開されているか、確認する。	・コース変更による生徒の精神的負担が大きく、また、コース内での学力差も大きく広がっており、コースの目的に適合したコース変更とはいかなかった。しかし、面談を丁寧に行うことにより、生徒それぞれの目標設定の指導が行えた。(○)
	②中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開に努める。	・生徒自らが適切な進路選択を行えるように、適切な時期に進路について考えを深めることができる機会を設け、意識を促す。 ・外部試験・模擬試験を活用し、自身の学習到達度を把握させる。	・国公立大学合格者数が在籍人数の2割を超えること、医学部医学科合格者数をのべ20名程度、関関同立の合格者数がのべ100名を超えることを目指す。	・合格実績については医学部医学科の合格者数以外は目標を達成できた。生徒それぞれについても、ほとんどの生徒が、満足のいく進路結果が得られていたと思われる。(◎)
	③将来、社会で生き抜いていく確かな力を身に着けさせるため、中学生の早い時期から、自己の適正や社会との関わりを意識させることで、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できる人間に育てるべく、様々な取り組みを工夫する。	・自身の将来の姿を思い描く手がかりにできるように、様々なキャリア体験の機会を設ける。	・各学年ごとに将来の進路決定につながるキャリア行事を行う。	・コロナウイルス感染対策のため、外部への行事や、校内で集まるような行事が実施できなかった。しかし、担任や教科担当から語りかけの機会を工夫することで、何とか補おうと努力した。(△)
・大学からの出前授業や外部団体による体験学習など積極的に活用し、生徒のモチベーションの高揚を図る。		・外部講師を招いての講演会を、高校各学年において1回ずつは実施する。 ・休暇中に実施される外部体験学習などへの参加を勧める。	・担任や教科担当者が表現力の涵養ということを強く意識し、発言指導や文章表現指導に積極的に取り組んだ。(○)	
	・体験・見学などの機会あるごとに振り返りを言語化し、文章にまとめるように指導する。	・報告文・感想文などを提出させる機会を多く設ける。		

3 本年度の取組内容及び自己評価

項目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
3 生徒指導	①「あいさつ」「いいねいな言葉遣い」「時間厳守」を年間目標に設定する。	講堂朝礼や毎朝の登校指導において生徒たちへの声掛け指導を行う。遅刻の多い生徒への個別指導を行う。	生徒・保護者アンケート。遅刻指導の報告書。	生徒・保護者アンケート結果から昨年度より向上がみられるが、毎朝の登校指導の様子からは「自分からあいさつできる生徒」はまだ少ない。(△) 遅刻者数は減少しているが、登校しない生徒も増えていた。(○)
	②生徒対象の防災教育、SNSや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などを実施し、生徒に対して啓発に努める。	防災避難訓練の実施。SNSについての講演。薬物についての講演。性被害についての講演。	生徒・保護者アンケート。危機管理についての意識付け。	感染症対策の為、全体での避難訓練の実施はできなかった。(×) SNSや薬物の講演は時期を変更して実施できた。(○) 新しい情報は今後の生徒指導に生かすことができた。
	③教員対象に生活指導に関する研修を受け、情報を共有し、全職員で指導に当たるべく努力する。カウンセリングや必要に応じた特別支援の充実、学園カウンセラーとの連携などを通じたいっそうの指導、対応に努める。	生活指導についての講演。学園カウンセラーとの情報交換。	新しい情報の充実、生活指導の改善に活かされる。カウンセリングルームの利用状況。	感染症対策の為、生活指導講演は実施はできなかった。(×) 学園カウンセラーとの情報交換はできた。(○)
4 海外教育	①グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成する。	夏期ニュージーランド研修(9日間)、夏期オーストラリア研修(12日間)の計画 凧花コース、グローバル・ワークショップで少人数でグループワークを行う。	新型コロナウイルス感染のため中止とする。残念であるが次年度以降の研修に期待したい。 凧花コースでは少人数でネイティブとの英語での交流機会をとった。	夏期海外研修を実施することができず残念であった。しかしニュージーランドやオーストラリアについて学ぼうとする姿勢がみられ、ネイティブ教員に対して英語で話しかけていたようである。(△)
	②異文化理解に努める。	高2 凧花コース、カナダ修学旅行を企画 高2 凧花コースでオンラインで体験学習、カナダの大学生・高校生との交流、ホームステイ疑似体験	新型コロナウイルス感染のためカナダ修学旅行が中止とする。その代わりにオンラインでカナダ・ホームステイを午前中3日間実施。興味関心をもってカナダ人との交流をできた。	カナダ修学旅行も実施することができず残念であった。しかしバンクーバーの大学生・高校生らとのオンライン交流は思った以上の成果をあげることができた。(○)
	③英語によるプレゼンテーションの向上を図る。	英語暗唱大会・英語弁論大会をそれぞれ実施。SDGs など時事的な諸問題への関心を高めて、英語で発表する	英語暗唱大会では中2・中3で、英語弁論大会は全学年で実施。	英語弁論大会は中1から高2までの19人が参加して、それぞれ時事的なテーマや世界的な貧困や差別の問題など意義深い発表もあった。(○)
	④ニュージーランド1年留学・3か月留学を通じて、実用的英語力の涵養を図る。	1年留学4名、3ヶ月留学1名がそれぞれ別の学校でホームステイを行う。留学当初は3週間の語学学校、その後それぞれの留学校に分かれて留学生活を送る。3ヶ月留学は3月29日に、1年留学は12月5日にそれぞれ帰国。	留学期間中に実用的な英語力を身につける。	留学期間中にロックダウンがあり、ホームステイ先でホストファミリーと多くの時間を過ごしたので日常的な英語力が身につくについて、人間的な成長につながったように思う。(○)
5 生徒募集 広報活動	①中学校入試では入試行事参加者を増やし、募集定員確保のため積極的に広報活動に努める。	・参加人数だけでなく、行事の質を担保することで、参加者の満足度を高める。	・参加者アンケートの分析。 ・出願者の通塾先の分析。	・アンケートの分析からは、昨年並みの出願が見込めた。(○)
	②高校入試では幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保を目指す。	・塾訪問の回数を維持すると同時に、新たに訪問する塾を増やす。 ・中学訪問の回数を維持すると同時にダイレクトメールなどで、入試情報提供を行う。	・出願者の出身中学の分析。	・高校入試では、昨年まで履歴のなかった塾や中学の名前が増えた。(◎)

# 2020年度 教員による学校自己評価

項目 番号	各項目について、下の1～4のうち、もっともあてはまるものを選び、回答欄に数字を記入してください。 1：よくあてはまる 2：ややあてはまる 3：あまりあてはまらない 4：まったくあてはまらない	中高全体 (%)				今年度 平均 評価	前年度 平均 評価
		1	2	3	4		
1	学校の教育方針、教育目標、年度毎の努力目標について周知されている。	31.1	51.4	17.6	0.0	3.1	3.1
2	生徒の実態を組織的に把握し、教育課題を明らかにできている。	17.6	54.1	25.7	2.7	2.9	2.8
3	教育課題解決のための組織が機能し、解決のための方策を具体化している。	13.5	41.9	40.5	4.1	2.6	2.6
4	学校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている。	35.1	44.6	18.9	1.4	3.1	2.9
5	各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話し合っている。	28.4	47.3	23.0	1.4	3.0	2.8
6	建学の精神である「宗教的情操教育」が教育活動全体を通じて実践できている。	31.1	60.8	8.1	0.0	3.2	3.1
7	朝礼、終礼時には瞑目や合掌、讃歌斉唱がきちんと実践できている。	77.0	18.9	4.1	0.0	3.7	3.5
8	今年度の生活指導の目標を意識して生徒指導ができている。	28.4	55.4	14.9	1.4	3.1	3.1
9	宗教的行事（はなまつり、報恩講、追弔会、了秀忌、早朝勤行など）が意義あるものとして実施できている。	50.0	45.9	2.7	1.4	3.4	3.5
10	教職員に対する宗教教育研修が意義あるものとして実施できている。	20.3	58.1	21.6	0.0	3.0	3.0
11	新しい教育課題や生徒のニーズに対応した教育課程が工夫されている。	16.2	48.6	32.4	2.7	2.8	2.6
12	教科毎に学習指導計画を立て、指導にあっている。	45.9	52.7	1.4	0.0	3.4	3.3
13	年間の学習指導計画について、各教科内でよく話し合っている。	31.1	58.1	9.5	1.4	3.2	3.0
14	学習指導計画について、他教科とも情報交換し連携している。	9.5	18.9	62.2	9.5	2.3	2.2
15	学習指導計画は各コースの特性を踏まえたものになっている。	21.6	54.1	20.3	4.1	2.9	2.9
16	学習指導計画は生徒の実態を踏まえたものになっている。	18.9	51.4	28.4	1.4	2.9	2.7
17	常に生徒が理解できる授業をしている。	23.0	73.0	4.1	0.0	3.2	3.0
18	日常の教科指導において教員間で個々の生徒に関する情報を交換し、協力して指導にあっている。	41.9	54.1	2.7	1.4	3.4	3.2
19	到達度の低い生徒に対する学習指導において、個別対応等を含めて工夫している。	27.0	48.6	21.6	2.7	3.0	3.0
20	学習意欲の高い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫を行っている。	28.4	54.1	16.2	1.4	3.1	3.0
21	授業に対する生徒の興味・関心を引き出すよう、体験学習や問題解決学習など多様な指導を工夫して取り入れている。	21.6	54.1	21.6	2.7	2.9	3.0
22	教員間の参観等で授業内容を相互に評価するなど、教科毎の企画工夫を通じて学習指導力の向上に努めている。	20.3	45.9	29.7	4.1	2.8	3.0
23	学校内外の研修に参加し、学習指導の向上に努めている。	16.2	41.9	40.5	1.4	2.7	2.7
24	研修や研究の成果を報告し、校内全体で共有できるように努めている。	13.5	35.1	47.3	4.1	2.6	2.6
25	新任教員に授業方法の伝達指導を行うなど、育成に努めている。	14.9	32.4	39.2	13.5	2.5	2.3
26	授業参観や保護者懇談会などを通じて、本校の学力向上の取り組みが保護者にもよく理解されている。	9.5	67.6	20.3	2.7	2.8	2.7
27	評価のあり方について検討する機会がある。	16.2	41.9	35.1	6.8	2.7	2.6
28	生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的な進路指導を行っている。	14.9	51.4	32.4	1.4	2.8	2.7
29	生徒一人一人が興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。	18.9	59.5	21.6	0.0	3.0	2.8
30	本人の適性に応じて学内でのコース変更や受験校選定指導をいねいに行っている。	29.7	54.1	16.2	0.0	3.1	3.1
31	私物のコンピュータ等のセキュリティ対策ができている。	33.8	47.3	17.6	1.4	3.1	3.1
32	ICT機器を利用した授業を実践している。	31.1	50.0	18.9	0.0	3.1	2.7
33	様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。	33.8	56.8	8.1	1.4	3.2	3.0
34	生徒指導において、カウンセリングマインドを持って生徒に接するよう教職員の共通理解が得られている。	23.0	58.1	14.9	4.1	3.0	2.9
35	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員やカウンセラーとも相談することができる。	45.9	36.5	16.2	1.4	3.3	3.2
36	生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている。	35.1	63.5	0.0	1.4	3.3	3.2
37	生徒に接する時、挨拶や適切な言葉遣いができている。	45.9	45.9	6.8	1.4	3.4	3.0
38	校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、教職員の間で話し合う機会がある。	23.0	39.2	31.1	6.8	2.8	2.4
39	問題行動の指導にあたっては、規定を機械的に当てはめることなく、個々の生徒の行為に応じて適切に指導している。	39.2	52.7	8.1	0.0	3.3	3.2
40	いじめ防止のための取り組みや体制づくりに努力している。	40.5	52.7	6.8	0.0	3.3	3.2
41	人権尊重に関する委員会があり、人権に関する事象を研究・検討するとともに、本校の人権教育の推進について計画的に取り組んでいる。	23.0	52.7	23.0	1.4	3.0	2.9
42	人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合う機会がある。	13.5	29.7	50.0	6.8	2.5	2.5
43	人権教育の推進に取り組むための研修が行われている。	29.7	40.5	24.3	2.7	2.9	3.1
44	海外教育の取り国によって国際理解が深まっていると思う。	14.9	60.8	23.0	1.4	2.9	3.0
45	学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	32.4	51.4	14.9	1.4	3.1	3.0
46	生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	25.7	51.4	17.6	5.4	3.0	2.9
47	部活動が盛んで、生徒もよく参加している。	17.6	56.8	20.3	5.4	2.9	2.8
48	ホームページや学校説明会などを通じて、本校を理解いただくための情報提供が適切になされている。	29.7	51.4	17.6	1.4	3.1	3.0
49	学校の経営状況について教職員が理解している。	17.6	35.1	40.5	6.8	2.6	2.5
50	学園本部と学校との意志疎通が適切になされている。	6.8	28.4	37.8	27.0	2.1	2.1

## 2020(令和2)年度 生徒アンケート

1 : そう思う 2 : どちらかといえばそう思う 3 : あまりそう思わない 4 : そう思わない

	2020				2019				2018				
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
A	朝礼、終礼にまじめに取り組んでいますか。												
B	日常、その場に合った適切な言葉遣いができていますか。												
C	日常生活で時間を守って生活できていますか。												
D	挨拶・礼はできていますか。												
E	授業は理解できていますか。												
F	小テストや講習にまじめにとりこんでいますか。												
G	毎日、家庭学習はできていますか。												
H	学校で実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは将来を考えるための機会になっていると思いますか。												
I	大谷の海外研修や留学生との交流により国際理解が深められていると思いますか。												
J	家庭でSNSを利用する時に情報モラルに気をつけていますか。(SNSを利用したことがない場合は5を記入)												
K	大谷のホームページを見ていますか。												
L	大谷の部活動は活発だと思いますか。												
M	学校行事に積極的に取り組んでいますか。												
N	家族と話し合う時間が取れていますか。												
O	大谷の先生はあなたを大切にみてくれていますか。												
P	現在のクラスに満足していますか。												
Q	大谷中学校・高等学校に入学して1番満足していることは何ですか。(下記より1つだけ選び、数字で教えてください。)												
	1.学習活動	2.進路指導	3.生活指導	4.学校行事・部活動	5.友人との関係	6.先生との関係	7.環境・雰囲気						
	13%	2%	1%	17%	8%	3%	1%	21%	13%	4%	1%	17%	
	51%	5%	11%		51%	4%	12%		47%	3%	15%		

※Jの項目でSNSを利用していない5% (2020年度) 7% (2019年度) 4% (2018年度)

## 保護者アンケート 2020（令和2）年度

保護者の皆様へ

お嬢様の学校生活をふりかえっていただき以下のアンケートにお答えください。

なお、A～Qまでの回答は4段階で1つだけお選びいただき、回答欄に数字を正しくご記入ください。

ご協力よろしく願います。

1：そう思う 2：どちらかといえばそう思う 3：あまりそう思わない 4：そう思わない

		2020				2019				2018			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
A	大谷の教育理念・教育方針について賛同されていますか。	60%	36%	3%	1%	58%	36%	5%	1%	56%	38%	4%	2%
B	お嬢様は日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。	35%	54%	10%	1%	31%	54%	13%	2%	29%	55%	14%	2%
C	お嬢様は日常、時間を守って生活できていますか。	37%	43%	17%	3%	35%	43%	18%	4%	34%	44%	18%	4%
D	お嬢様は日常、挨拶ができていますか。	53%	40%	6%	1%	51%	40%	8%	1%	46%	39%	14%	1%
E	大谷では生徒のニーズに対応した教育課程や学習指導がなされていると思われますか。	29%	50%	17%	4%	26%	49%	20%	4%	27%	49%	18%	6%
F	保護者の方に生徒の学習状況・成績等はわかりやすく伝わっていますか。	40%	46%	12%	2%	41%	46%	11%	2%	40%	48%	10%	2%
G	お嬢様は家庭学習の習慣が身についていると思われますか。	30%	39%	24%	7%	26%	39%	27%	8%	27%	39%	27%	7%
H	大谷が実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは、お嬢様が自分の将来を考えるための機会になっていると思われますか。	25%	52%	18%	5%	28%	51%	19%	2%	26%	52%	19%	3%
I	大谷の海外研修や留学生との交流により、国際理解が深められていると思われますか。	22%	49%	24%	5%	26%	48%	22%	4%	27%	48%	23%	3%
J	SNSやスマートホンの利用について、ご家庭で使用方法などの決まりを作っておられますか。 (但し、SNSを利用したことがない場合は5をご記入ください)	28%	40%	21%	8%	32%	36%	19%	8%	31%	37%	19%	6%
K	大谷のホームページを見ておられますか。	27%	31%	28%	14%	22%	30%	30%	18%	20%	53%	23%	4%
L	大谷のPTA活動は活発だと思われますか。	10%	48%	37%	5%	15%	48%	31%	6%	19%	53%	23%	5%
M	保護者あての文書・連絡等は適切であると思われますか。	46%	44%	8%	2%	44%	46%	9%	1%	43%	46%	9%	2%
N	ご家庭でお嬢様と話し合う時間が取れておられますか。	55%	40%	4%	1%	53%	40%	6%	1%	46%	42%	11%	1%
O	大谷は生徒の安全面で事故の防止に配慮していると思われますか。	40%	49%	9%	2%	37%	50%	10%	3%	34%	49%	14%	3%
P	大谷では生徒に関するプライバシーが守られていると思われますか。	42%	50%	7%	1%	42%	49%	7%	2%	39%	53%	7%	1%
Q	大谷が保護者の方とお話する機会をもっていると思われますか。	32%	45%	18%	3%	31%	45%	19%	5%	32%	46%	18%	4%

JについてSNSを利用しない 2020年度3%、2019年度5%、2018年度4%。

## 2020年（令和2）年度 教員・生徒・保護者アンケート概要と総括

### 【教員による自己評価アンケート】

#### ○概要

教員による学校自己評価のために、別紙○の50項目について、[1：よくあてはまる・2：ややあてはまる・3：あまりあてはまらない・4：まったくあてはまらない]の4段階評価アンケートを行った。アンケートの結果は、各項目について1を4ポイント、2を3ポイント、3を2ポイント、4を0ポイントとして全教員の評価ポイントを集計・平均し、[項目評価ポイント]を算出した。[項目評価ポイント]3.5以上の項目が1項目、2.5以下の項目が4項目であった。また、各項目内で1の比率が40%以上のものは7項目、4の比率が10%以上のものは2項目あった。

#### ○教員の評価が高い項目

##### 情操教育に関連する項目

- ・朝礼、終礼時には瞑目や合掌、讃歌斉唱がきちんと実践できている。
- ・宗教的行事（はなまつり、報恩講、追弔会、了秀忌、早朝勤行など）が意義あるものとして実施できている。

##### 学習指導に関連する項目

- ・教科毎に学習指導計画を立て、指導にあたっている。
- ・日常の教科指導において教員間で個々の生徒に関する情報を交換し、協力して指導にあたっている。

##### 生活指導に関連する項目

- ・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員やカウンセラーとも相談することができる。
- ・生徒に接する時、挨拶や適切な言葉遣いができている。
- ・いじめ防止のための取組や体制づくりに努力している。

#### ○教員の評価が低い項目

##### 学習指導に関する項目

- ・学習指導計画について、他教科とも情報交換し連携している。
- ・研修や研究の成果を報告し、校内全体で共有できるよう努めている。
- ・新任教員に授業方法の伝達指導を行うなど、育成に努めている。

##### 生活指導に関連する項目

- ・人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合う機会がある。

##### 学校経営に関連する項目

- ・学校の経営状況について教職員が理解している。
- ・学園本部と学校との意思疎通が適切になされている。

#### ○総括

令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため4月当初から休校となり、授業動画作成、5月にオンライン授業を実施。分散登校を経て、通常登校は6月半ばからとなる異例の年度となった。アンケートの結果、宗教的情操教育については前年度より高い評価となった。学習指導において「個々の生徒に関する情報交換」「教科毎の学習計画」は高い評価となっている。昨年同様「学習指導計画についての他教科との情報交換」・「新任教員の育成」・「人権尊重についての全職員での話し合い」では課題を残した。また、「常に生徒が理解できる授業をしている」については教員側は比較的高い評価であるが、過信することなく生徒アンケートと一致するように努めていかねばならない。

生活指導においては「校則が生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるか」については、昨今の社会情勢を鑑み、建学の精神と合わせて考えていく必要がある。「経営状況についての理解」については前年度より評価は高くなったが、「学園本部との意思疎通」は引き続いて、評価が低く、教育現場と本部との関係の改善にはなお課題を残した。

## 【生徒への学校生活アンケート】

### ○概要

生徒の学校生活に関するアンケートを実施した。別紙○の17項目について、[ 1 : そう思う・2 : どちらかといえばそう思う・3 : あまりそう思わない・4 : そう思わない ] の4段階評価をさせた。全生徒のアンケート結果を集計し、各項目の評価比率を算出した。各項目内で1の比率が40%以上のものは10項目、3と4の比率が合計20%以上のものは4項目あった。

### ○生徒の評価が高い項目

#### 情操教育に関連する項目

- ・朝礼、終礼にまじめに取り組んでいる。
- ・挨拶、礼はできていますか。
- ・日常生活で時間を守って生活できていますか。

#### 学校生活に関連する項目

- ・小テストや講習にまじめに取り組んでいますか。
- ・現在のクラスに満足していますか。

#### 家庭生活に関連する項目

- ・家族と話し合う時間が取れていますか。
- ・家庭内でSNSを利用する時に情報モラルに気をつけていますか。
- ・学校生活で1番満足していることは友人との関係

### ○生徒の評価が低い項目

#### 学習活動に関連する項目

- ・毎日、家庭学習はできていますか。
- ・学校で実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは将来を考えるための機会になっていると思いますか。

#### 学校生活に関連する項目

- ・大谷のホームページを見えていますか。
- ・海外研修や留学生の交流による国際理解が深められていると思われるか。

### ○総括

コロナ禍のなか、球技大会、体育大会、修学旅行、海外研修など大きな行事が中止を余儀なくされた。しかし、朝終礼や、挨拶・礼などポイントは上昇している。家庭での話し合う時間も高い評価であった。学校行事や部活動、国際理解については十分実施できないため評価は下がった。「小テストや講習にまじめにとりくむ」は向上しているが、なお「家庭学習ができていない」は昨年度よりやや下がったが、課題を残している。「SNSを利用する時に情報モラルに気をつけている」としているが、保護者アンケートでは「SNSやスマートフォンの利用についての決まりができていない」という回答もあり、情報リテラシーの向上に努めなければならない。「大谷の先生はあなたを大切にみてくれますか」という項目で評価の低い生徒がいることは真摯に受け止め、教師と生徒間の意思疎通を今後も丁寧にしていかなければならない。

## 【保護者への学校生活アンケート】

### ○概要

保護者に対して、生徒の学校生活に関するアンケートを実施した。別紙○の17項目について、[ 1 : そう思う・2 : どちらかといえばそう思う・3 : あまりそう思わない・4 : そう思わない ] の4段階評価をさせた。全保護者のアンケート結果を集計し、各項目の評価比率を算出した。各項目内で1の比率が40%以上のものは6項目、3と4の比率が合計20%以上のものは9項目あった。

### ○保護者の評価が高い項目

#### 情操教育に関連する項目

- ・大谷の教育理念・教育方針について賛同されていますか。
- ・お嬢様は日常、挨拶ができていますか。

#### 家庭生活に関連する項目

- ・ご家庭でお嬢様と話し合う時間が取れておられますか。
- ・保護者あての文書・連絡等は適切であると思われませんか。

### ○保護者の評価が低い項目

#### 学習指導に関する項目

- ・お嬢様は家庭学習の習慣が身についていると思われませんか。

#### 家庭生活・PTA活動などに関連する項目

- ・SNSやスマートホンの利用について、ご家庭で使用方法などの決まりを作っておられますか。
- ・大谷のホームページを見ておられますか。
- ・PTA活動が活発だと思われる。

### ○総括

コロナ禍のなか、授業動画・オンライン授業についてご家庭でのご協力を得て、試行錯誤ながら実施できた。PTA活動はPTA新聞以外ほぼ活動ができなかった。しかし、前年度以上、保護者の方には本校の教育理念に賛同をいただいている。生徒たちは挨拶をはじめとした基本的な生活習慣も身につけており、家庭での話し合いもほぼ十分にとれている。しかし、生徒アンケートと共通して「家庭学習の習慣」が身につけておらず課題を残した。また、「ホームページ」についても課題があり、一層の改善が必要である。

## 令和2(2020)年度学校関係者学校評価委員会 結果報告

令和2(2020)年度学校関係者学校評価委員会は新型コロナウイルス感染予防のために書面会議とした。令和3年7月、外部委員の方々に学校の自己評価資料を送付し、ご質問やご意見をいただいた。以下、課題、対策、質問、意見を報告する。

### 1. 課題 大谷のICT教育の取り組みについて

・評価委員から大谷のコロナ禍のなかでのICT教育の取り組みについて

#### 対策

凛花コース以外はiPadを所有していないため、休校期間は各家庭の機材を利用して対応せざるを得なかった。令和4年度より中一・高1全員にiPadを持たせるので、教員はアプリの導入などの中身の検討、研鑽に努めていく。

### 2. 課題 コロナ禍での授業の遅れについて

・評価委員からコロナ禍のなかでの授業の遅れについての対応

#### 対策

休校期間はアナログとデジタル双方をフル活用したハイブリッド方式を採用して対応した。各教科が課題プリントを作成し生徒宅へ郵送。担任は電話での体調確認と心のケアに努めた。ICTの利用について、各教員が授業動画を製作し、Classiにて生徒に配信。さらにMicrosoft Teamsを利用してオンライン授業を実施した。生徒は録画も利用しながら学習に取り組んだ。

### 3. 課題 学習指導について

#### a. 中期的目標②「コースに応じた学力向上の取り組み」

コースに応じた学力向上対策を実施しようとしたが、十分でなかった生徒もいた。

#### b. 生徒アンケートG・保護者アンケートG「家庭学習の習慣」

家庭学習の習慣が十分でない生徒が昨年度よりは減少しているが、まだ、一定数いる。

#### 対策

a. 生徒の考査成績や模試成績の分析を学年、教科でフィードバックする。基礎学力をつけるため、個々の生徒にきめ細やかに対応できるよう、具体的な目標を設定させて学習指導をしていく。

b. 校内で放課後の自習室の利用を促し、長期講習期間などに学生チューターの活用など自主的に学習に取り組めるよう工夫をしていく。その結果、家庭学習の習慣につながるよう努める。

4. **課題** 進路指導について

a. 中期的目標①「コース制を生かした丁寧な進路指導」

コロナ禍のなか講習を十分に実施できなかった。

b. 中期的目標③「進路指導の取り組み」

コロナ感染対策のため外部および校内での行事の実施が難しかった。

**対策**

a. 放課後の活動に制限があったが、各コースの講習の内容については工夫して取り組んだので、今後も継続する。

b. コロナ感染対策の制約のなか、教員による語りかけの機会を増やし、生徒に寄り添いながらの進路指導を目指す。中学生の早い段階から将来の夢や進路について深く考えさせる場を設けていく。

5. **課題** 生活指導について

・ a. 中期的目標① 「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」について

・ b. 中期的目標② 避難訓練の実施について

**対策**

・ a. 率先しての「あいさつ」や丁寧な言葉遣いについては、十分とは言えないが、アンケートからは向上がみられる。今後も継続して取り組む。

・ b. 感染症対策のため避難訓練を実施できなかったため、実施できない場合はシュミレーションで経路の確認を必ず行う。

6. **課題** 海外教育について

・ 中期的目標①「国際感覚の育成」について

今後、コロナ禍のなかでの大谷の国際交流について

**対策**

コロナ禍のなかで、凛花コースはオンライン海外留学を体験した。今後もオンライン利用をして姉妹校交流など積極的に国際交流を実施していく。

☆評価委員の方々からのご意見

- ・ 2020年コロナ禍のなかで、大谷のICT教育についてどのように取り組んでいるのか。
- ・ 女子校として学習指導、生活指導ともに魅力がある。公立にはない宗教的情操教育で素晴らしい女子校を作ってほしい。今後の高校3か年生の進学実績を待ち、受験生が選択できる学校があることを期待している。
- ・ 2020年度コロナ禍での心配は授業の遅れなのでフォローをしてもらいたい。
- ・ 安全で安心して学校に通わせる環境をつくってほしい。大谷生は創造性に長けており、活動の場で生かされている。今後も生徒たちの力を伸ばして行ってほしい。
- ・ 評価を通して学校が教育目標に向かって指導面を強化していることが感じられた。進路指導、生活指導、海外教育においては、指標を達成しており、先生方の日々の手厚い指導が感じられた。学習指導面においては、外部教員派遣、学力向上の対策、講習等、様々な手段をとっているが、基礎学力の向上には課題を残している。
- ・ 進路指導において、国公立への進路実現に向けた取り組みの強化や、医学部進学に向けた医師体験、看護師体験など、実際の現場を体験する貴重な機会を提供できていることが高く評価できる点だと感じた。他校においても、医学部大学との連携や、学内での医学関連のフォーラムを行うなど様々な工夫を実施し、医学部受験への意識を高める傾向にあるので、本校もさらに新たな実践を試み、生徒のモチベーションアップに繋がればと思う。
- ・ 生活指導面においては、登校指導や日頃の先生方の手厚い指導により、生徒たちの挨拶への積極性や、一つ一つの振る舞いにも礼儀正しさを感じる人が多い。また、クラス内においても遅刻者や生徒間での大きなトラブルは少ないように感じた。この点は、先生方が生徒をよく見ていること、また積極的に声をかけてくださることが大きく影響していると感じ、高く評価できると感じる。
- ・ 海外教育にも力を入れており、多様な価値観を認めることができる生徒を育成する様々な教育活動が展開されていると感じた。その結果、外大系への進学、大学進学後の海外留学、英語を生かした就職など、どのように生徒たちが良い方向へと繋がっていくかという実績があれば、海外教育への功績をより感じるができると思われる。
- ・ 生徒たちが社会で正しく生きていくための教養をつけ、進学校としての高度な学力養成をはかるため、生徒たちの進路や将来について、先生方が日々配慮し尽力していることである。さらに徹底をはかるためにも保護者の協力が大きく影響すると感じる。アンケートの、"生徒の学習状況の伝達"や"適切な学習指導"の項目において、より多くの保護者の方に賛同してもらえよう、今後も教員一同、努力していきたいと感じる。
- ・ アンケートや保護者会だけにとどまらず、webを通じて、情報発信を行うことで、保護者の目を常に学校に向けさせることに重点を置くべきだと考える。生徒たちが自発的に勉強、生活態度を改善することが理想ではあるが、やはり、教員そし

て保護者の指導があって、生徒たちの日々の生活習慣の改善、勉強への意識向上に繋がると考える。

- ・ 丁寧な進路指導や講習やチューターの活用など様々な取り組みを行っていることは評価できると感じるが、高校1年、2年の段階でも自分の目指す方向性が見えていない生徒が多いと感じる。授業内容の充実を図ることも重要ではあるが、早い段階より、将来の夢や進路の希望などを生徒たちが深く考えることができるよう、ホームルームの中でそのような場を設け、各々の教師達が意識的に語っていくことが大切ではないかと考える。
- ・ 生徒一人ひとりのニーズにこたえる様々な自習環境が整っていないように感じる。生徒の勉強への意識、成績の向上につなげるためには、やはり、生徒が自ら学ぶ姿勢を身につけることだと考える。そのために、個別の自習ブースや、教師への質問ができる職員室前の廊下スペースを広く設置する、できるならば自習ホールを設置し、学生チューターを置くなど生徒の学習習慣を養うことが大切かと考える。設備の整った自習スペースを確保できればと考える。
- ・ 2020年度以降の教育改革にむけ、探究型の学習を進め、主体的に学ぶ姿勢を育てるために小論文を書かせるなどの取り組みとあるが、社会において必要なことは、書くスキルだけではなく、教養があり、高いコミュニケーション能力も問われることが多い。自分の意見を持ち、それを具現化するためにどのように行動できるかをしっかり語る能力が大切だと思う。英会話の授業で自発的に考え、声に出すことに苦手意識を持っている生徒が多いように感じる。中学の段階から、自主性を重んじ、自分で考え行動できる場、発言できる場を提供できないかと感じる。
- ・ 海外にも姉妹校があるので、連携を取り、テレビ会議を利用し生徒間で交流させることを実現できないか。これは「聴く」「話す」の2技能の習得を目的とした外国語教育の実践にもあたり、英語に対しての苦手意識や自尊心の低さを有する生徒に対し、生徒が成長するきっかけになるのではないかと感じる。受け身であった生徒が主体的にかかわれるようになったり、活発に議論に参加できるようになったりと生徒の意識・態度の成長が見られる。ICTを活用した外国語教育の実践は、生徒の成長だけでなく、学校のアピールポイントとしても大きく成長すると思われる。関西でも実践している学校はまだ少ないため、ぜひ実践できればと思う。
- ・ 大谷の印象について宗教的な背景からか「かたいイメージ」を抱いている人が多い。よく言えば、「規律正しく」という意味にもなるが、昨今の時代における保護者は「個性」を伸ばし、自主性を高めることへの成長を重んじている人も多い。そのような保護者の方にも、本校を明るいイメージの学校ととらえ、未来を担う学生たちが夢の実現へ向けて努力できる環境が整っていること、個性を伸ばし、学習意欲を高めていける学校だと認識してもらえようPRできないかと考える。
- ・ 卒業生として厳しさの中にも先生方からの愛情を受け、報恩感謝の精神に基づき、

人として規律正しく生きることを学び、そして豊かな心を育てて頂いた。その土台があったからこそ、大学や社会においても粘り強くどんなことにも挑戦できたと感じる。私学の女子募集が厳しい状況下で、生徒を確保することは難しいことだと認識しているが、今一度、視点を少し変え、本校の良きところを大きくアピールし、学校のPRに取り組むことで、生徒確保に繋がるのではないかと考える。

以上